

エンパワーするNGO



大阪YWCA

2  
2025<http://osaka.ywca.or.jp>

YWCA (Young Women's Christian Association) は、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

大阪YWCA ピースフェスティバル 2025.1.13

## 「語り継ぐ～平和を紡ぐストーリー～」

こうこ

### 近藤絃子さん講演会『心の中に平和を』



2024年のノーベル平和賞を受賞した日本原水爆被害者団体協議会への授賞理由に「いつの日か歴史の証人である被爆者がいなくなる時が来るだろう。しかし、記憶を残すための力強い活動と継続的な取り組みの中で、日本の新たな世代が被爆者の経験と想いを語り継ぐ。」とある。今年のピースフェスティバルはこの選考文の中から、「語り継ぐ」というキーワードをテーマにして、平和を訴えて活動されてきた近藤絃子さんをお迎えし開催した。

近藤さんは、生後8ヶ月で爆心地から1.1kmにある生家の流川教会牧師館で被爆したが、奇跡的に無傷で倒壊した建物から救出され、町内で唯一生き残った

赤ん坊だった。

幼い頃の近藤さんは、教会に来る被爆女性達の顔や手が酷いケロイドで覆われているのを見たり、周囲の話の聞いたたりして、優しい彼女達の苦痛の原因を作ったのは、原爆を落とした人であると考えていた。小学5年生の時、アメリカのテレビ番組の招きで、エノラ・ゲイの副操縦士であったキャプテン・ルイスと対面した。彼は、原爆投下直後の広島を上空から見て、「神よ、私達はなんてことをしてしまったのか。」と後悔したことを、涙ながらに語った。近藤さんは、彼の苦しみに気が付き、それまでの自分の考えを後悔する。「憎むべきは、個人ではなく戦争だ。」と。

しかしその後も、近藤さんの人生には、被爆者であることが暗い影を落とし続ける。中学生の頃は、アメリカが設立したABC C (原爆障害調査委員会) の検査で、世界中の研究者達を前にして、ステージ上で腰に巻いた布以外を脱がされ、モルモットのように扱われたこ

と、20代では、婚約者から被爆者であることを理由に婚約破棄されたこと、被爆者の皆さんは近藤さんと同じように、おそろく様々な心の葛藤と整理を経て、80年間、絶え間なく平和な核なき世界を希求してきたであろう。しかし、その想いとは裏腹に、今も12000発の核弾頭が地球上に存在し、核による威嚇が繰り返されている。

近藤さんは、講演の締めくくりに、彼女の話を聞いた私達が、バトンを受け取り、平和な未来を作るのを願うとおっしゃった。このような世界だからこそ、私達は平和をあきらめず語り継ぐのだ。(文責編集部)

こんどう こうこ

広島市出身の平和活動家。現在、兵庫県三木市在住。生後8カ月のときに、母親の腕のなかで被爆体験をする。父親は広島流川教会の牧師で、大ベストセラー『ヒロシマ』(ジョン・ハーシー著)に登場する谷本清。

# 「核」否定の思想に立つ

## 原爆絵画展

昨年、日本原水爆被害者団体協議会(以下、被団協)がノーベル平和賞を受賞し、核兵器が二度と使われてはならないことを、目撃証言を通じて身をもって示してきたことが評価された。日本YWCAが1972年「核否定の思想に立つ」を全国総会の強調点に掲げてから55年。それを大きな柱に据えた大阪YWCAの平和への実践を振り返る。そして戦後80年、つまりアメリカが広島・長崎に原爆を落としてから80年経った、2025年の今を生きる私たちにできることは何かも考えてみたい。



原爆絵画展 (1980年)

NHKの呼びかけで「市民の手による原爆の画を残そう」という運動が広がり、多くの絵が集まった。1976年、神戸YWCAはこれらの一部を借りて「広島市民が描いた原爆絵画展」を開いた。大阪もこれにならない、「広島文化センター」で保管していた60枚を借り出し展示することになった。「核」否定の思想を具体的な運動として広げるものとして、毎年夏が近づくと数十人の会員が熱心に関わり、各地の学校、教会、公共施設などへと拡大されていった。

この絵画展は、反核・平和運動として次第に一般市民や自治体の共感するところとなり各地で開催されるようになって、1990年に一応の任を終えた。

## ひろしまを考える旅

1971年、広島・長崎の被爆の実態を知り、正しい洞

察をもつために日本YWCAは「ひろしまを考える旅」を始めた。1981年には関西4市(大阪・京都・神戸・名古屋)のYWCAが共催。高橋昭博平和資料館館長、詩人栗原貞子ら戦争体験者の話を聞き、フィールドワークでは福島病院・原爆看護ホームなどを訪れ、「ひろしまの戦後」をたどった。この旅は毎年回を重ね、今年も続けられている。

## 生命を選ぶ

### 「核」環境問題

「核」問題とは、単に核兵器だけではなく、核実験、原子力発電、放射性廃棄物、放射能汚染、環境汚染ととらえることはいうまでもない。1986年、チェルノブイリ原子力発電所の事故は大きな契機となった。この年の日本YWCA総会では「生命を選ぶ」が主題となり、基本方針の「キリスト教基盤に立つて

変革への力となる」と相まって、会員の運動を支え、行動を促すものとなった。機関紙『大阪版』での特集「死の灰つてなあに」食卓に上った放射能」と題する久米三四郎(大阪大学)の勉強会や「核」原子力『平和利用』という嘘」と題した小出裕章(京都大学)の講演会などを行い、脱原発に取り組んでいった。

## 東日本大震災の後

東日本大震災の後、福島の子どもたちが放射能の影響を気にせず過ごせるようにと、保養プログラムを行った。

## 「核のタブー」を守る

ノーベル平和賞の最年少選考委員長ヨルゲン・フリードネス氏はこう話す。「核兵器は道徳的に受け入れられず、二度と使用すべきではない」という私たちが「核のタブー」という国際規範を形作る上で、被爆者の証言が重要だと考えている。平和賞は被爆者の努

力を讃えるとともに80年近くも核兵器が使われていないという驚くべき事実を敬意を表すものだ。日本被団協と被爆者は、痛みや苦しみを、トラウマを通じ、堂々と立ち上がり、何度も自分たちの物語を語るうとするので『核のタブー』を作り出し、核兵器の使用を防いできた。」

ノーベル平和賞の授賞式の後、石破総理大臣と面談した被団協の田中熙巳さんは3月に開かれる核兵器禁止条約の締約国会議のオブザーバー参加を求めたが、総理からの反応はなかった。日本政府は核兵器の開発や保有、使用を禁止する核兵器禁止条約への参加には消極的な姿勢をとっている。ただ、日本と同じアメリカの「核の傘」に依存するドイツやノルウェーはオブザーバー参加している。

日本政府に核兵器禁止条約への参加を促し、今後も「核のタブー」を守り続けること、核兵器を地球からなくすための努力を諦めないことは私たち一人ひとりにかかっているといえる。

(文責 編集部)

## 門外不出の趣味



75歳になった記念に、ずっとあこがれていたバイオリンを習い始めました。目標は、少なくとも80歳まで続けること。

まもなく2年目を迎える昨年1月に転んで手首を骨折手術をしたので全く練習が出来なくなりました。

それでもバイオリンへのあこがれはやまず、半年後にようやく再開することが出来ました。

年のせいでもともと硬くなっていた手首はプレートが入ったためにますます硬く曲がりにくくなり、リウマチの持病もありますが、それでも負けません。

発表会に出るとか、人に聴いてもらいたいとか、何の曲が弾きたいとかなどの目標は全くなく、練習することで昨日よりほんの少しだけ良い音が出たら楽しいし、この年になっても先生から褒めていただくと嬉しくてついつい練習にも熱が入ります。

まだまだ小学校低学年レベルですが、どのくらいのレベルまで行けるものかを楽しみに、この先も「門外不出の楽しみ」として続けていきたいと思っています。

(会員 保々 恭子)



コメンテーターのアルテイシアさん

# 2024 インターンシッププログラム

## 大阪YWCA女性エンパワメント部

2021年度から実施している「インターンシッププログラム」。若い女性のリーダーシップ養成を目的に、毎年試行錯誤を続け、4年目の今

年は「ジェンダーを自分ごとにくモヤモヤ社会への行動を起こすための第一歩」をテーマに6月から学びと企画実習を続けた。

最終回の12月20日には、受講生が話し合って作り上げた「私の人生、私が選ぶ」アンコンシャス・バイアスからの解放」と題するワークショップを、大学生や社会人の参加者に向けてオンライン実施。特別ゲストとして、フェミニスト作家のアルテイシアさんを迎え、その力強いエールとコメントに、社会に向けて行動を起こしていく勇気を得た。引き続きの修了式では、受講生から、学びの成果と今後への抱負が語られた。

### △受講生の感想▽

ルッキズムを含むアンコンシャス・バイアスは、無意識に他人を傷つけてしまう恐れがあります。自身の思い込みに「気づく」ために、普段から人と関わり沢山議論することが大切だと、インターンを通して学びました。

(A yane)

ジェンダー問題やルッキズム、将来の選択などは日常生活



修了証書授与

活では深く考える機会が少ないため、改めて自身を見直す貴重な経験となりました。この学びを活かし、より多様な視点を大切にしていきたいと思えます。

(Anri)

同じ目標に向けて仲間と共に議論し行動する経験が、自身のエンパワメントになりました。そして社会に深く根を降ろす家父長制の呪いに向き合う勇気を得ることができました。次は具体的な目標設定に向けて人と出会い行動していきます。

(Eiwa)

(ny)



## 2024 YMYW合同祈禱週集会

2024年11月18日(月)18時半〜20時半に、YM・YW合同祈禱週集会(大阪YMCA関西韓国YMCA・大阪YWCA合同)を大阪YWCA梅田会館で行った。今年のテーマは、「自然現象に学び、信仰をもって歩む〜水・地・火・風 (Moving with Faith through the Elements WATER-EARTH-FIRE)」。第一部は礼拝、第二部は各Y活動紹介と食事を含む交流の集い、オンライン併用のハイブリッド形式で実施。礼拝のメッセージは、ちょうどフリカ・ケニアから帰国されていた市橋さらさん、ケニアで行われているコイノニアエデュケーションセンターでの貧困家庭の子どもたちへのキリスト教に基づいた質の高い教育

(会員 津戸 真弓)

### Books 編集部文庫

寺地はるな さん著作



友人に教えてもらった小説家寺地はるなさん。通勤時に読めるように買った文庫5冊。他にも作品多数。どの作品も、読んでみると心がほんわか温かくなり、呼吸する事、生きていることが少し楽になる。お疲れ気味のあなた、しんどくなってるあなたにお薦め。

### 聖書の言葉

「神は愛です。愛にとどまる人は神の内にとどまり、神もその人の内にとどまってくださいます。」

ヨハネの手紙一 4章16節



未来へ——安心を創る

## FUJIKI 藤木工務店

大阪本店 〒541-0051 大阪市中央区備後町1-7-10  
ニッセイ備後町ビル1階  
TEL06-4964-8700

100年の信頼と実績(明治10年創業)

【お客様へ快適なオフィス環境を】

- ・DX・働き方改革
- ・OA機器・インターネットセキュリティ
- ・経費削減

※ご相談はお電話か、QRコードから問い合わせください。



株式会社 野木  
〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目22番7号  
Speed, innovation & mind TEL.06-6940-7675 / FAX.06-6940-7695  
https://nogi.co.jp/

日本語学科  
卒業生

# 今こんなことをしています

～世界各地で活躍している卒業生を紹介しています～

## ファイサル チョウドリさん 1998年卒 (バングラディッシュ)

私は今、グンゼ株式会社のバングラディッシュ本社Gunze United Limitedで11年間勤務しています。昨年、グローバル営業部長になり、ますます忙しい毎日をすごしています。YWCAで学んだ日本語を日系企業で活かすことができ、先生たちに感謝しています。日本に出張で来ることもあるので、その時にはYWCAの先生たちにお会いしたいです!



妻と0歳のころの息子  
(4月から小学生になります)

## 日本YWCA第34回全国会員総会 Y's Wonderful Women賞 受賞者紹介



Y's Wonderful Women賞 受賞者と共に

2024年11月23日(土)・24日(日)に国立オリンピック記念青少年総合センター(東京)で開催した日本YWCA第34回全国会員総会会場で、各地域YWCAから推薦された「Y's Wonderful Women賞」の授賞式があった。賞の対象は83歳以上の現役会員。大阪YWCAからは秋山佳子・片山淳子・澤田祐子・末吉佳世子・辻加代さん5名を推薦、当日は、澤田さん、秋山さん、辻さんの3名が授賞式に臨まれた。いずれの地域YWCAからも素敵な先輩方が受賞されていたが、やはり私たち大阪YWCAの先輩が一段と輝いて見えた。先輩方、永年ありがとうございました。そして、これからも、よろしくお導きください。(会員 津戸 真弓)

### 講演会 バレスチナ支援について

日程 3/1(土)14:00～

@大阪YWCA シャロン千里

講師 北村記世実さん  
(バレスチナ・アマル代表)



お知らせ  
大阪YWCA点字子ども図書室が、2024年11月に厚生労働大臣賞を受賞しました。

## 秋期の奨学金授与学生

大阪YWCA専門学校日本語学科

24/11/1～24/12/31

### ■仙台宮城野奨学金

- ハサノフ ディリシヨドベックさん (ウズベキスタン)
- 孫智慧さん (中国内モンゴル)
- ソロンロンゾンボルド オルギルさん (モンゴル)
- グエン ティ フェン チャンさん (ベトナム)
- レレ アン トウさん (ベトナム)
- カナル アンジャンさん (ネパール)

### ■鈴木保奨学金

- テュオン コン ベト ニヤットさん (ベトナム)



【協力ありがとうございます】  
24/11/1～24/12/31 敬称略順不同

### ■賛助費

- 池田 洋子 片山 純子 高橋 浩二
- 堀西 敏子 南 憲明

### ■寄付

- 大阪商工会議所
- 中山 羊奈 アトリエ創

### ■教師会

- 藤井 清秀

### ■梅田

- (株)アドワン
- コスモ建物管理(株)

### ■点字

- 学校法人伊丹教会学園 葉功稚園
- (一財)中山文甫会館

### ■クリスマス献金

- 相澤 美子 有田 悦子 池田 洋子
- 上野 康子 遠藤恵美子 大杉美耶子
- 川崎 明恵 熊田多美子 小池りつ子
- 西条 哲 笹部 真樹 笹部 昌子
- 鹿野 幸枝 東海林恭子 白川 啓子
- 末吉佳世子 関根 久子 高木 裕子
- 高橋 和子 瀧本 政子 辻 加代
- 中山ゆかり 原 紀子 藤井 保男
- 藤岡美智子 帆足 文子 松下 起子
- 松田 慶子 三澤 文子 南方里依子
- 宮澤 玲子 村松 通子 森垣友二郎
- 山高万寿子 吉田 瀧子
- (株)サンカレーション
- 日本キリスト教団北千里教会
- 日本キリスト教団豊中教会
- 日本キリスト教団南住吉教会

### ■その他

- 家本 陽一 清塚 典子
- 小八木晴代

### ■募金

- 18口 562、531円

## 11月運営委員会報告

【報告】▼女性エンパワメント部

1ストリアYWCA元運営委員  
ヤスミンプールさん受入れ10/19

31、女性エンパ以外にも様々な活動  
に参加、意義あるインターンシップに  
なった。▼千里委員会 秋のバザー  
10/26に実施。来場者約200人。

【協議】1 YMW/YW合同祈禱週  
集会(11/18)当日の流れ、役割分  
担確認、決定。2 LA大阪ツアー  
日程決定 2025/3/21

23 【クリスマスバザー】当日詳細検  
討、ピースフェスティバル内容協議

## 12月運営委員会報告

【報告】▼女性エンパワメント部  
インターンシッププログラム、12/21の  
ワークショップ実施に向けて、11/21  
オンライン企画会議、12/5オンラ  
インリハール実施。▼東日本大  
震災被災者支援担当 大阪YWCA  
A3-11わいわいサポート奨学金応  
募者なし、1月末締切で再度募集。  
【協議】1 クリスマスバザー振り返り  
2 ピースフェスティバル当日内容詳細  
決定、役割分担 3 定期会員集  
付帯プログラム講師検討 4 ワン  
ールドフェスティバルブース担当分

### お詫言ひと訂正

12月号聖書の言葉の出典が誤っており  
ました。お詫言ひして訂正いたします。  
(悪ユハネの手紙一 4章16節  
(正)ローマの信徒への手紙12章18節)